

5-0250

03 12

大正元年八月七日 接獲

警務政務局

第一號

滿州於自働車運行試驗實施件通牒

大正元年八月六日軍用自働車調查委員長 田中義一

外務省政務局長 阿部守太郎 殿

軍用自働車調查委員 於自働車之關係

查、為本月中旬より來月上旬に亘り、左記如ク

滿州に於て軍用自働車、長途運行試驗ヲ

實施可致矣。行ハ本職より別項、要旨ヲ談試驗

委員長、訓令ニ尚ホ關東都督府陸軍部等ニモ

詳細通牒濟、矣。得共貴職ニ於テモ此際滿州

駐劄各領事、御内示、上相當ノ便宜ヲ與ヘテ

陸軍

ノ素豫致度此段及通牒也

左記

一 經路 八月五日頃鐵道四平街發、鐵嶺奉天ヲ經テ

遼陽ニ至リ更ニ連山關、鳳凰城ヲ經テ九月

二日頃安東縣ニ至ル但シ情況依リ遼陽ヨ

リ直テ鐵道沿道ヲ大連ニ至ルコトアルヘシ

二 試驗 從事スル人員

委員長 少佐大佐 中川幸助

委員 將校 五名

附屬員 下士以下 各七名

三 試驗 使用材料 自働車 四輛

0042

第...

第...

長考 欽定 通牒 中...

別項

訓令要旨

運<sup>行</sup>試<sup>験</sup>成<sup>ル</sup>ハ<sup>ク</sup>鐵<sup>道</sup>附<sup>屬</sup>地<sup>域</sup>内ニ於<sup>テ</sup>  
實<sup>施</sup>シ且<sup>外</sup>交<sup>上</sup>ノ関<sup>係</sup>ニ十<sup>分</sup>ノ注<sup>意</sup>ヲ拂<sup>フ</sup>テ要  
ス

陸

軍



一行三行

上(大)部(一)保(官)以(供)無(支)事(ノ)紙(付)与

少(中)年(ノ)也

(受)第(四)小(三)子(ノ)官(係)

外 卷

満洲に於て自動車軍行試験實施に伴ひ  
 陸軍省に於て自動車軍行試験實施に伴ひ  
 陸軍省に於て自動車軍行試験實施に伴ひ

大正四年五月廿三日 陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

満洲に於て自動車軍行試験實施に伴ひ

大正四年五月廿三日 陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

外務次官 齋藤實 喜重郎 殿

軍用自動車調査委員に於て自動車二隊スル

研究ノ為大正五年一月下旬ヨリ二月下旬ニ直リ

左記ノ如ク満洲ニ於テ軍用自動車ノ軍行試験

ヲ實施可致候ニ付テハ相當ノ便宜ヲ與ヘラレ

候様致度候也

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍

左記

一 経路 大連ニ上陸後鐵道輸送ニ依リ奉天ニ至リ

二 試験ニ從事スル人員 准士官以下三十五名

三 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

四 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

五 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

六 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

七 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

八 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

九 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十一 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十二 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十三 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十四 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十五 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十六 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十七 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十八 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

十九 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

二十 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

二十一 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

二十二 試験ニ使用スル材料 乗用自動車三輛 自動領車七輛

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

鉄道線路 近接セ 道路ヲ 通行スル 陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健

陸軍省 陸軍部 陸軍次官 大島健



文書課長

大正四年 歲月廿七日 接受

軌道

同 年 十二月 廿七 日 附 草

送第一九九號

主管政務局長

大正四年 歲月廿七日 達濟

第一課

主任

十五

因陸軍大臣

石井外務大臣

滿洲於自動車運行實施關係件

本件、關シ、十二月二十日付陸普第三五二二

号ヲ以テ大島次官ヲ幣帛次官ニ申

越、次第ハ關係各領事ニ夫々相達

置候間右様御承知切カニ後、

今回滿洲ニ於テ實施セラル、自動車、試駛

運行ニ目下、非有、願、鐵道線路ニ

非出末得ル限リ、鐵道附屬地外ニ出ツル

カ如キコト、與テ様改度、若シ万一附屬地

外、出テサルヲ得サルカ如キ場合ニ際シ、

車庫

大正五年一月

外務省





大正五年貳月廿五日接受

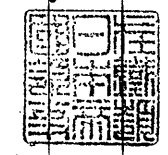
備前守 大正五年二月廿五日

第一四號

大正五年二月十三日

在鐵嶺

領事代理領事官補酒匂秀一



外務大臣男爵石井菊次郎殿

我陸軍自働車隊ノ鐵道附屬地外運  
行ニ關スル件

客臘二十七日附政機密合送第一九〇號  
貴信ヲ以テ滿洲ニ於テ自働車運行試  
驗實施ノ件ニ關シ御來示ノ次第有  
之候處本月十二日夜開原獨立守備第

在鐵嶺日本領事官

二大隊副官ヨリ電話ヲ以テ該自働車隊  
ハ本月十三日十五日及十六日ノ三日間開  
原附屬地ヲ基点トシテ鐵道附屬地外十  
ル南城子(伊通縣)貂皮屯(開原縣)及昌  
圖城ニ往復運行人豫定ナルニ就テハ右  
支那官憲ニ知照方御取計ハレ度旨及  
右ニ關スル書面ハ直チニ發送可致至急  
ヲ要スル儀ニ付不取敢依頼スル旨申出有  
之候然ルニ斯ク實施期日ニ差迫リテ  
此種申出アルハ支那側ヲシテ通過地方  
ニ周知セシムル上ニ於テ不便不敷ノミナラ  
ス前頭御來示ノ次第モ有之遺憾ノ  
至リト被思料候(共急送ヲ要スル場合

秘受2061號



ニテ餘儀ナキ次第ナリト認メ候ニ付支那  
側ニ對シ直チニ口頭ヲ以テ右運行人ノ趣ニ關  
シ申入レ置クト共ニ改メテ公文ニテ知照方  
取計置候條石ニ御業知相成様致度報  
告旁此段申進候 敬具

在鐵道日本帝國領事館